

概ね指標値並の生育、 出穂期は近年並の見込

1 現在の生育状況（7月8日調査結果）

新之助の生育状況は田植の早晚による差も少なくなり、指標値と比べ、草丈「やや短」、茎数「並」、葉数「やや遅」、葉色「並」。出穂期予想は8月12日で近年並。

	移植日	草 丈 (c m)	茎 数 (本/m ²)	葉 数 (葉)	葉 色 (SPAD 値)
本年値	5月17日	48	562	10.7	36.7
指標値	—	52	580	11.3	36.0
指標値比・差	—	92%	97%	-0.6	+0.7

※本年値は普及センター調査5ほ場の平均値。施肥は全て分施肥系。

2 出穂期予測と穂肥時期・施用量のめやす

出穂期	施肥時期のめやす（出穂前日数）		合計窒素量 (kg/10a)
	1回目	2回目	
8/12	7/22~7/25(21~18)	7/31~8/ 2(12~10)	2~3

- ・1回目の穂肥は、出穂期21~18日前、幼穂長が5~10mmとなった時期に施用する。
- ・2回目の穂肥は出穂期12~10日前に施用する。
- ・穂肥量は1回当たり窒素成分1kg/10aをめやすとする。ただし、栄養凋落が予想される場合は1回当たり1.5kg/10aまでをめやすに施用量を調整する。
- ・1回目の穂肥施用時期までに葉色の低下が著しい場合は、ケイ酸カリ等を施用し、葉色を保たせ、早めに1回目の穂肥を施用する。

3 今後の栽培管理

(1) 水管理

根の活力維持のためほ場の乾燥は避け、飽水管理を徹底する。フェーン発生時は速やかに湛水し、フェーン後は速やかに落水して水の入れ換えを行う。

(2) 病虫害対策

- ア 葉色の濃いほ場では葉もちが確認されているので、ほ場をよく観察し、病斑が見られたら粉剤または液剤で速やかに防除する。穂いもちは、水面施用剤または液剤または粉剤等を用いた予防防除を原則として実施する。
- イ カメムシ対策として、農道や畦畔の草刈りや、水田内の除草（特にヒエ、ホタルイ）を徹底する。
- ウ 紋枯病の発生が認められたら遅れないよう防除する。前年多発したほ場で育苗箱施用剤を施用していない場合は、水面施用剤で予防を行う。この場合、出穂14日前までに遅れないように施用する。